

氏 名	小澤 かおる
所 属	人文科学研究科 社会行動学専攻
学 位 の 種 類	博士（ 社会学 ）
学 位 記 番 号	人博 第 85 号
学位授与の日付	平成 28 年 3 月 25 日
課程・論文の別	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題名	マイノリティの情報保障 ——性的少数者のライブラリとアーカイブズを中心として——
論文審査委員	主査 江原 由美子 委員 丹野 清人 委員 栗山 正光

**【論文の内容の要旨】**

## 博士論文要旨

所属専攻：首都大学東京人文科学研究科社会行動学専攻社会学教室

学籍番号：09958102

氏名：小澤かおる

指導教員名：江原由美子教授

本稿は、どのようにすれば、マイノリティ（少数者）やその関係者、その他問題に関心のある人々他が、必要な情報を確実に受け取り、また発信することができるか、情報保障の観点から問題点を検討し、今後行なうべき改善点を探ることを目的とする。

マイノリティはマジョリティのための情報に囲まれ、根本的に情報格差にさらされる。適切な情報を質・量ともに増やすためには既存の情報を保全するのみならず、マイノリティ当事者や関係者などが情報を発信し、蓄積していく必要がある。このためにはさまざまな方策が考えられるが、特にミュージアム、ライブラリ、アーカイブズ（MLA）は重要である。

本稿では特に、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）当事者やアライ（支援者）の／ための書籍・資料を扱うライブラリ（図書館）、アーカイブズを中心に、現在の実践状況を記述し検討する。

第2章でマイノリティ、第3章で性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）、第4章で情報保障、という本稿で用いる概念について述べる。

ついで第5章で、性的少数者コミュニティ、MLAの歴史的推移と海外事情についての概略を記す。これに関しては本稿よりも詳細な文献が多々あり、本稿ではこれ以降に必要なことのみをまとめた。異論があることは了解しているが、特に踏み込んだ議論はしない。

ただし、マイノリティとしての性的少数者についてはコミュニティ、アイデンティティ、社会からの「承認」や「受容」などがよく議論されており、この問題は性的少数者の情報保障について深くかかわることなので、第6章では最近の「同一化受容戦略」について触れながらこの問題を考察した。

第7章ではコミュニティ・スペースとMLAの重要性と国内事情について、インタビュー調査およびアンケート調査の結果を含めて記した。これらの調査の中で特に重要と思われるコミュニティの形成や再構築については第8章にまとめて記した。

性的少数者は近代以降に顕在化したマイノリティの一員であって、必要な情報を十分に得ることができないことがある。したがって、情報保障を行ない、必要な情報を得られるようにMLAなどの社会資源が整備されることが望ましい。それは性的少数者がアイデンティティを追求し、コミュニティに接続し、マイノリティであるがゆえに被る差別・偏見が少しでも少なく自己決定ができるという、人権に基づく権利である。

日本国内には性的少数者についての展示のある博物館がひとつあり、いくつかのライブラリを備えたコミュニティ・スペースがあるが、専門的なアーカイブズはまだない。性的少数者のコミュニティがその歴史を形成していくためにはアーカイブズが必要であり、構築される必要がある。ライブラリにおいては、それがたんに図書・資料の蓄積であるだけでなく、コミュニティの形成や再構築に関与しているといえる。ミュージアムやアーカイブズもその任を担っているといえよう。したがって、性的少数者がマイノリティであるかぎり、MLAはそのコミュニティにとって必要なものである。